

書牘卷之二(十)

賣 証
壳米預り証文

覺 覺

一、米何石 但何米

右之米、貴殿ニ賣渡、代金

受取候処実正也、即刻

御引取成さるへき処「馬・舟」

差支ニ付、当分拙者方に

預り置申候、何時にても、御

都合次第、此証書ト引換

相渡申へく候、後日の為、証

書さし入候也、

明治何年何月何日

賣 証
壳主 何某

証 人
何某

何某殿

※漢字は全て新字体に直したが、原文が旧字体に近い書体で書かれている場合は、右脇に旧字体を添えた。

※変体仮名は現行の平仮名に直した。なお、字母に当たる漢字を右脇に添えた。